

令和4年度 朝来市立（生野中）学校 学校評価

学校教育目標

夢や志を抱き 自立して未来を生き抜ける
 ころ豊かな人づくり
 ～夢をかたり 汗をかき 絆をつむぐ～

総合的な学校関係者評価

・全ての項目において、丁寧に取り組む姿勢が感じとれて良い。
 ・小規模校ですが、生徒は個々の持てる力で学習や生活面に一生懸命に取り組み、心身共に成長している。
 ・コロナ禍ではあったが、様々な事柄へ取り組みは成果が伴っていたように思う。生徒数の減少は今後も続くと見込まれる今でこそ、プラスにできる学校運営を地域も一緒に考えていける仕組みづくりも必要であるのではないかとと思う。また、様々な課題がある中で、今年度も一定の成果はあったと思うが、その評価が通り一辺倒にならないことが大切である。

自己評価 達成状況 (A: 達成している<85以上> B: 概ね達成している<70%以上> C: あまり達成していない<50%以上> D: 達成していない<50%未満>)

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)	
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	・学校だよりや学年通信、学校ホームページを通じて積極的に情報発信ができた。また、記者発表も積極的に行い、市の広報や新聞記事に掲載された。いち早くホームページに情報を掲載することで、保護者から喜ばれた。今後も継続していく。 ・オープンスクールは、コロナ禍ではあったが、後半の12月3日(土)に開催することができた。午前中を授業参観、午後からPTA教育講演会とすることで参加しやすい環境をつくった。また、ボランティア活動(19【生野】の日)を生徒会が主催で開催することができた。学校運営協議会報(創刊号)を発刊することができた。	・学校だよりは毎月、発行され全校配布されているので、地域の人には伝わっています。HPや通信等の編集など大変だと思いますが、今後も継続していただきたいと思います。 ・ホームページは随時更新されているので、見て見ようという気持ちを持たせていただいています。 ・少しずつオープンスクール等で、住民参加型の取り組みの復活を望みます。老人会との「グラウンドゴルフ交流」やいずみ会との「郷土料理実習」子育てセンター、こども園での幼児教育体験、体育祭や生野混成合唱団との文化祭、喜楽苑、ひなたぼっこ等での介護福祉やボランティアなどです。その様につながることで、体育祭が町民運動会へと発展していく様に思う。 ・学校運営協議会の会報として、至誠プロジェクト『しろがね』を発行することが出来たことは良かったです。これを継続していくことが大事だと思います。 ・生徒会主催の「19の日」は意義ある活動だと思います。その実施内容や方法などには、今後の継続を思うと一考することも必要ではないかと思えます。 ・生徒が自発的な行動できるような取組は、今後も積極的に行っていただきたいです。 ・SNSのトラブルは、新しい問題がすぐに起こってくると思いますので、継続して指導して頂きたいです。また、親子で共に学ぶという形式はとても良いと思います。危険性ばかりでなく、有効活用についても学ぶ事が望ましい。 ・SNSについての講演会は、生徒はもちろんであるが、保護者に対しても必要であると思う。 ・支援教育については、民生児童主任委員も交えて、その生徒の将来、方向性も地域と共に歩むべきと考える。 ・一人一人の個性を生かし、伸ばしていくことはとても大切なことで、ケース会議の結果を受けた改善につなげることができなかったのは、残念です。わずか三年という短い中学校生活の中の大切な一年をしっかりと取り組んでいただきたい。 ・教職員も地域で開催される歴史的なフォーラムに、率先して聞きに行つてはどうか。
		オープンスクール(学校公開)など住民参加の教育活動の推進	B		
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	・生徒会活動を活性化させ、生徒が主体となった活動ができ、生徒の手による組織運営が実施できた。また、全校生で取り組むボランティア活動も実施することができた。教師の指示で行動するのではなく、生徒たちが気づき、生徒たちで解決できるそんな集団に成長させていくことを目指していきたい。 ・毎週末の振り返りを中心に、日々の生活日記、学期一度の生活アンケートや教育相談などで生徒の内面に触れる機会を設け、担任や学年の職員で生徒理解を深めながら関わっていく。	
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	A	・SNSのトラブルを事前に防ぐため、学期に一度は各教科で指導できる場を設けていく。さらに、家庭の協力や理解を得るために、土曜日に教育講演会を親子で共に学ぶスタイルで実施することができた。	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A		
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	C	・引き続きコロナが感染拡大する中、対応マニュアルを再検討し作成することができた。また、それを職員に周知させ、指導の徹底が図れた。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B	・計画的に避難訓練(1.17の集い)等が実施することができた。しかし、事前指導した上での実施でしたので、次年度は通達なしで実施を試みている。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A	・ケース会議を実施できたものの、その結果を受け、改善につなげるという点で大きな成果が見取れなかったことからB判定となってしまった。継続した支援体制づくりのためにも、定期的に研修を重ね、指導力を高め全職員で取り組みたい。 ・引き続き、入学説明会資料に本校の特別支援教育の方針を掲載し、保護者に安心感を与えたことは意義深いものがあった。	
安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	B	・コロナが感染拡大する中、学校独自の対応マニュアルを作成することができ、それを職員に周知させ、指導の徹底が図れた。また、学校のホームページにも方針を掲載し、情報提供を行っている。		
あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A	・系統的かつ計画的に「ふるさと教育」にむくことができている。また、「体験教育」にも重視した事業を多く展開できた。今年度も、地域人材を活用して「生野踊り」の講習会を開催するなど、体育祭において披露することができた。		
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立ち情報活用能力育成を含めた授業改善、授業のUD化の推進	C	・主体的・対話的で深い学びにつなげる授業づくりが大切である。そこで、外部講師を招聘しての校内研修を開催することができた。今後、実践的な取組と研究授業の継続開催が課題である。職員の相互参観によることで、授業力の向上につなげていく。	
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	C	・今後、授業で勝負ができる先生の育成のため、充実した研修計画・内容を継続して取り組んでいかなければならない。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	・道徳教育においては、担任による研究授業を開催し、工夫改善などを職員全員で共通理解が図れることができた。また、ローテーション授業を実施することで、担任の業務負担軽減にもつながり、生徒を多面的に見ることができた。	
	総合的な学習の時間	全体計画に基づく工夫改善	A	・コロナ禍ではあったが、ほぼ計画通りの実施ができた。その成果を各学年でまとめ文化祭にて個人発表することができた。その反面、準備に費やす時間が多くいることから学習に影響がないか懸念する職員もいる。	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	C	・人権週間を重点的にとらえ、道徳の時間を活用して人権感覚を身に付けさせた。また、今年度も引き続きコロナ差別が危惧されたが、機会あるごとに全校集会や学年朝会を通して全校生に周知徹底が図れた。	
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	・体験活動については、概ね計画通りに実施することができた。特に、新しい取組として日本オオサンショウウオの会への出場及び命の教育(思春期の健康教育)に取り組むことができた。ころ豊かな人生を送るためにも、感動を伴う体験活動を積極的に実践していく。	
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	B	・今年度、栄養教諭を招聘し、3年生に食育として「希望献立」の授業を実践できた。今年度も、アレルギーのある生徒がいるので、連携した食育を推進する。 ・キャリア教育として、本校では多種多様な体験活動や出前授業等、積極的な取り組みを行ってきた。今後も更に取り組みを充実させたい。そして、小規模校という利点を生かして、小規模校だからこそできることを推進し、生徒が将来社会で活躍できる力を身につけさせたい。	
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	A		
その他	・自ら学び、考える力を育成する指導方法の工夫 ・歴史と伝統文化の継承と創造する力の育成 ・ICT機器を活用した授業づくり	B	・講師を招聘し、校内研修で職員の研鑽に努めた。継続して研修に努めさせるとともに、職員相互による研究授業を実施し、教師の授業力向上につなげていく。 ・「日本オオサンショウウオの会・朝来大会」に出演するにあたり、改めて生野の自然の魅力や環境教育に取り組むことで、ふるさと愛の醸成につながったと感じる。 ・コロナ禍でも、学びを止めずにできることを探り、臨時休校に備えたオンライン授業を2回実施することができた。	・各教科についての指導要領以外の学習については、その必要性と方向性を一致団結しておかなければ、温度差が生じるように感じた。そのためには、事前のミーティング、段取り、終点を確実にしておかないと各々の不信感や未達成感へとつながらないか。 ・食育の取組は、「健康な体づくり」の礎となるものと思います。「食べる」ことの大切さをしっかり学べるよう取り組んでいただきたいです。 ・生徒には、「生きる力」を身につけられるよう今後も指導をお願いします。 ・コロナ禍でも、トライやる・ウィークの体験活動に取り組めたことは良かったが、次年度以降、協力事業所の確保(新規開拓も含め)等、課題があると思う。 ・薬物乱用防止教室の参加対象を3年生だけでなく、1・2年生も一緒に学ぶべきだと思う。今後ご検討いただきたい。	
			・中学生の間に、「ふるさと愛」を育むことが大切なので、今後も取り組んでもらいたい。 ・「ふるさと」を思う心の醸成は、一朝一夕にはできないと思います。 ・若い先生方もあられるので、新しい発想で工夫した授業を期待します。 ・地域との交流を持ったとき、地域にまかせてしまうと、どこまで必要とさえしているのか、どこまで入り込めばよいのか戸惑いが生じるので、担当者が事前勉強をもっとしておくことが必要である。		